

2024年11月 旅行取扱高状況報告

＜ 日本国内における旅行区分別取扱高 ＞

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	21,833,380	21,403,783	102.0%
国内旅行	4,439,206	3,932,073	112.9%
訪日旅行	1,411,983	823,731	171.4%
合計	27,684,570	26,159,588	105.8%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデーtravel、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

■ 海外旅行

11月22日より「HIS ブラックフライデー」と題して、間際の12月・1月出発を中心に“売切御免の今だけ価格”のセールを展開し、海外旅行の需要喚起を図りました。取扱高においては、引き続き欧州・中近東・アフリカ方面が牽引しており、中でも添乗員同行のパッケージツアーが前年同月比145.9%と好調に推移したほか、韓国が前年同月比107.5%と好調を維持しており、今秋就航の外国船ラグジュアリークルーズ「バイキング・エデン」の初便貸切りを実施した、釜山をめぐるツアーも押し上げた要因となりました。一方、北米、ハワイ・マイクロネシアは為替や、ハワイ線の減便影響などもあり、前年同月比を下回りました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比102.0%の218億3,338万円となりました。

＜ 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ ＞

方面別	前年同月比
アジア	108.0%
オセアニア・南太平洋	121.5%
ハワイ・マイクロネシア	77.7%
欧州・中近東・アフリカ	117.0%
北米・中南米	80.5%

商品別	前年同月比
手配旅行	100.9%
企画旅行	104.5%

チャネル別	前年同月比
店舗	99.0%
オンライン	97.7%

■ 国内旅行

スカイマークとのコラボレーション企画として「スカイマークタイムセール」を実施。関東発では宮古島行き、千歳発では沖縄本島行きが高い伸びをみせるなど、沖縄を中心に集客増加に繋がりました。取扱高においては、沖縄本島南部と石垣島の人気観光地を回るバスツアーのラインナップ拡充により、単価増がみられた沖縄が数字を牽引し、前年同月比102.3%となりました。商品別ではバスツアーにおいて、環境省認定の「日本一星空がきれいな村」である長野県・阿智村にて、標高1,400mの山頂を貸し切りした「星空ナイトツアー」を実施するなど、オリジナルコンテンツの拡充により宿泊を伴うバスツアーの利用が増加し、前年同月比112.1%の単価増となりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比112.9%の44億3,920万円となりました。

■ 訪日旅行

独立行政法人日本芸術文化振興会と連携し、訪日外国人旅行者向けに初春歌舞伎鑑賞日帰りバスツアーの販売を開始しました。閉場中の国立劇場を有効活用する事業の第一弾として、国立劇場の舞台施設や楽屋などを見学するバックステージツアーをはじめ、実際の歌舞伎で俳優が着用していた衣裳を羽織る体験と、舞台背景の前での写真撮影といった特別企画を通じて、日本の伝統芸能の魅力発信に努めました。取扱高においては、欧米からの団体旅行の受客が好調に推移しており、特に北米からの団体旅行の受客においては、内容充実の体験型のシリーズツアーの受客が増加しており、前年同月比143%と取扱高を牽引しました。また、欧州からの受客強化により、イタリア・イギリス・スペインからの団体旅行が増加し、前年同月比153%と高い伸びをみせました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比171.4%の14億1,198万円となりました。

2024年11月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比105.8%の276億8,457万円となりました。

2024年11月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	10,034,977	8,940,262	112.2%
アウトバウンド	13,698,242	15,994,797	85.6%
合計	23,733,219	24,935,059	95.2%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 32 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

■ 海外インバウンド

海外の旅行事業の成長戦略として、海外インバウンド事業では HIS グループからの受客のみならず、HIS 以外の旅行会社からの受客強化に加えて、日本以外のグローバルマーケットからの受客強化を推進しております。

取扱高においては、タイがチェンマイで開催されたイーベン コムローイ祭りを訪れるツアー商品の販売が奏功し、前年同月比 140.7%と大幅な伸びをみせたほか、初夏を迎えたオーストラリアにおいて、日本からの修学旅行が取扱高を牽引し前年同月比 141.0%と好調に推移したほか、インドネシアでは、バリ島での団体旅行の受客や中国マーケットからのホテル手配の需要を捉え、前年同月比 124.9%と推移しました。カナダでは、引き続きトロント、バンクーバーなど都市部で行われているイベントやコンベンションに付随した渡航手配が好調であったものの、前年より厳しい寒さとなったことで、冬のアクティビティ関連の取扱高が伸びず、前年同月比 97.5%に着地しました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年度同月比 112.2%の 100 億 3,497 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

オーストラリアでは、B2B での日本行きスキー関連商品が伸び、前年同月比 185.5%と好調に推移したほか、シンガポールで、日本やサウジアラビア行きの MICE 案件に加え、スクールホリデーにおける日本行きのオーダーメイド旅行など、高単価商品が取扱高に貢献し、前年同月比 103.7%と着地しました。しかしながら、取扱高を牽引するカナダが、寒波の影響で暖かい中米リゾートの商品がブラックフライデーセールにて好調に推移したものの、低単価の中距離商品が中心となったことから、前年同月比 81.5%と着地しました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 85.6%の 136 億 9,824 万円となりました。

2024年11月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 95.2%の 237 億 3,321 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室：050-1746-4188
広報室：050-1746-4177